

N 連案件第 2 年次申請書：

<6. 事業内容、7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など、8. 期待される成果と成果を測る指標>

<p>6. 事業内容</p>	<p>本事業は、「エルメラ県アッサベ郡の農村地域の生業機会が向上する」ことを上位目標として掲げ、以下を事業の 2 本柱として、諸活動が構成されている。</p> <p>(1) 農業分野において持続可能で多様な生計手段が構築できるように、同郡の農民の能力強化を図ること（以下、気候変動等の変化に強い持続的で多様な生業手段の構築）。</p> <p>(1)については、「持続可能な開発目標（SDGs）」の以下の目標 2 に寄与し、とりわけ、ターゲット 2.3 及び 2.4 の実現に向け、活動を展開してゆく。</p> <p>目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。</p> <p>2.3 2030 年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。</p> <p>2.4 2030 年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱（レジリエント）な農業を実践する。</p> <p>(2) 対象女性農民が生計活動により積極的に参加できるよう女性の能力強化を図ること（以下、女性の意思決定への参加）。</p> <p>(2)については、「持続可能な開発目標（SDGs）」の以下の目標 5 に寄与し、とりわけ、ターゲット 5.1 及び 5.5 の実現に向け、活動を展開してゆく。</p> <p>目標5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う</p> <p>5.1 あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。</p> <p>5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。</p> <p>本事業では、同郡の 4 村内 22 の集落村にある平均 15 名のメンバーから成る 30 の農民グループ(約 450 名)を対象にしている。農民グループの構成メンバーのジェンダーバランスや女性のリーダーシップの育成の観点から、30 の農民グループのうち、10 グループは女性のみで構成することを目標にしている。また、活動には、カウンターパートであるエルメラ県とアッサベ郡の地方政府スタッフと 4 村 22 集落村の地域住民リーダー約 350 名(村長、村評議員メンバー、農業普及員、一般の地域住民や文化的リーダー等)の積極的な参加を見込んでいる。直接的にはこれら 30 の農民グループのメンバー約 450 名が対象受益者であるが、活動の成果が将来的に広く対象地域内に広がることで、間接的には 22 集落村内約 1,289 世帯が裨益する。</p> <p>前述の上位目標に向け、今次期間においては、下記の活動を実施予定である。</p> <p>(1) 気候変動等の変化に強い持続的で多様な生業手段の構築</p> <p>活動①：短期的及び長期的な気候変動への農民の対応能力の調査 (Climate Vulnerability and Capacity Analysis-CVCA)</p> <p>本調査は、1 年次にすでに 2 村にある 10 集落村を対象に実施済みであり、</p>
-----------------------	---

	<p>2 年次には残りの 12 集落村を対象に実施する。住民自らが主体となって災害や気候変動に対する地域レベルでの脆弱性に対応力について分析し、地域のハザードマップ作成、水等の重要な生業資源や、気候変動のリスクを受けやすい場所や資源の特定、各季節特有のリスク(土砂災害、病気の流行、飢餓等)の特定などを行い、リスク軽減に向けた情報を収集する。</p> <p>活動②：農民グループを対象とした気候変動に適した農業技術研修</p> <p>全 22 集落村のうち第一グループの 10 集落村を対象に 1 年次に実施された活動①及び 2 年次初めに第二グループの 12 集落村を対象に実施する活動①で得られた情報を基に、第二グループの 12 集落村に対して具体的な農業技術研修を行う。1 年次に開始した災害に強く持続性の高い農業技術(既存の貯水池や貯水タンクの有効活用、湧水の保全、細流灌漑や保水のためのマルチング技法等)や農法のベストプラクティスの研修を第二グループに対して開催し、各集落で農産物の生産量の向上と安定的な生産を目指す。</p> <p>活動③：農民グループを対象とした収穫後の農産加工に関する技術研修</p> <p>収穫された農作物を長期に保存する技術研修を実施するとともに、それらを自己消費するだけに留まらず、収入創出源として商品化の潜在性を高めてゆく。研修後は参加した農民がフィールドオフィサーからの支援を受けながら、それぞれが属する農民グループに技術移転を図る。</p> <p>活動④：農民グループ及び販売拡大の為に関係者を対象としたビジネス研修</p> <p>④-1：農民グループを対象とした小規模農業ビジネス立案・家族会計に関する研修</p> <p>④-2：潜在的な農民リーダー及び地元商人を対象とした市場との繋がりと販売経路の拡大に関する研修</p> <p>2 年次には、農業生産性の向上と多様化を実際の収入創出に繋げるために不可欠である基本的な会計実務、事業計画の立て方、原価計算について研修を実施するとともに、グループの農民リーダーと地元商人を対象に、販売経路の拡大を目指したより実践的な研修を実施する。販売経路拡大に向け、同分野に精通した機関との連携を強化することを視野に入れる。</p> <p>活動⑤：農民グループを対象とした気候変動に適した農業技術の実演</p> <p>1 年次に、第一グループの 14 の農民グループを対象に実施済みであり、2 年次には第二グループの 16 の農民グループを対象に実施する。具体的には、気候変動に強い農地区画法、斜面農業ランド技術(SALT: Slope Agriculture Land Techniques)、水保全と細流灌漑の適用等、研修で学んだ技術を実際の農地で実演する。更に良質の種子や新しい農作物を取り入れてゆく。</p> <p>活動⑥：農民グループどうしの農業活動地の視察ツアー</p> <p>2 年次及び 3 年次には、農民グループどうしが互いの農作業地を訪問しあい、お互いが学んだ知識や技術を共有し合う場として視察ツアーを実施する。また、実技研修の位置づけとして視察ツアーの中に技術の実習も含める。</p> <p>活動⑦：農民グループを対象とした小規模農業ビジネス起業に向けた市場販売フェアの実演</p> <p>農民グループが作った実際の農作物や加工品を地域の市場で販売する機会を設ける。売上は個々の農民の収入とする。活動④で前述の拡大販売通路を視野に入れながら販売対象や招待者を考慮する。</p> <p>活動⑧：フィールドオフィサーによる上記活動②～⑦にかかる農民グループへのフォローアップ支援</p> <p>活動⑨：集落強靱化アクションプラン (Aldeia Resilience Action Plan :ARAP) の策定と実施</p> <p>2 年次には、農民グループと地域住民が協力して集落強靱化アクションプランを策定する。このアクションプランは、事業の持続発展性の鍵となる</p>
--	--

成果として、事業終了後も、同地の生業向上のための青写真として 22 の集落村で長く実施される。プロジェクト形成時には、同活動は全 22 集落村を対象に、3 年次にこれまでの活動の集大成として策定することを予定していた。しかし、3 年次になってからの策定では、プロジェクト実施期間中に、モニタリングや地域住民へのメンタリングに十分な時間がさけず、事業終了後の継続性への影響が懸念されるため、第一グループの 10 集落村に対しては、当初の 3 年次から前倒しで 2 年次に実施する。

具体的な活動内容は、活動①の地域の脆弱性調査と同様に、農民グループを含めた地域住民の参加型により行われ、災害や気候変動等のリスク軽減と資源管理による生業の安定と向上に向けた計画を策定する。

事業実施中そして終了後も、農民は、策定した計画を実際の生業活動の場で継続的に実践してゆくことが期待される。

活動⑩：フィールドオフィサーによる活動⑨の実施のフォローアップ支援

(2) 女性の意思決定への参加

活動①：女性から成る農民グループの上記 (1) の活動への参加

活動②：農民グループを対象とした女性のリーダーシップ研修

1 年次に開始した、農民グループ内と地域内での意志決定に女性メンバーが貢献してゆくためのリーダーシップ研修を引き続き実施する。研修後は参加した女性メンバーが、それぞれが属する農民グループの女性メンバーに対して研修内容の伝授を図る。

活動③：アッサベ郡 4 村の地域住民を対象とした男女平等研修

1 年次に開始した農民グループのメンバーや郡の職員等を対象に男女平等に関する研修を引き続き実施する。女性の権利と男女平等に関する具体的なトピックをあげて理解の促進を図る。また、参加者の男女比率のバランスに最大限の配慮をする。

活動④：アッサベ郡 4 村の地域住民を対象としたジェンダーに関する意識と行動変容のグループセッション

農民グループに属する女性の夫や青年層の男性を対象に、性差に基づく文化的な男女の役割分担や差別について意識と行動の変容を促すためのグループセッションを実施する。同セッションは、すでに 1 年次に開始しており、2 年次には、第二グループを対象に実施する。

活動⑤：女性から成る農民グループを対象とした成功している女性農民グループの相互訪問 (3 年次に延期)

当初の計画では、2 年次及び 3 年次に各活動に積極的に参加している女性農民グループどうしが訪問しあい、お互いが学んだ知識や技術を共有し合う場として視察ツアーを実施することになっていた。しかしながら、(1) 活動⑨の ARAP の実施を 3 年次から 2 年次に繰り上げたことに伴い、同活動は 3 年次に延期して実施することにする。

(3) 資機材の購入：種子保存用のドラム缶

持続可能な農業を実施するには、収穫後、農民自身で種子を保管し、翌年にその種子を利用して耕作することが重要となる。農産物の生産量を増やし、自給自足用だけではなく余剰を売ようになるためには、良質の種子を使用し、その種子をいい状態で保存することで翌年の生産に繋げることが重要であり、種子保存のドラム缶の必要性は高い。ドラム缶を使わずにバケツに入れた状態や袋に入れた状態で保存するとネズミによる被害や、湿気を含んでアフラトキシンというカビ毒にやられる可能性が高くなる。アフラトキシンの被害にあって、次期の農作期は効果的で生産量の高いトウモロコシ栽培が出来なくなり、また毒を含んでいるため健康にも害となる。

1 年次に形成した 14 の農民グループメンバーに種子保存用のドラム缶を供与するが、2 年次で形成予定の 16 の農民グループメンバーに対しても、同様

	にドラム缶を供与し持続性を高めてゆく。なお、事業終了後は、農民グループのメンバーによってドラム缶は持続的に使用されてゆくことを想定している。
7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	<p>(1) これまでの成果（実施した事業内容とその具体的成果） 事業開始（2016年2月3日）から本2年次事業概要提出時（2016年8月1日）までの約半年間には、下記活動が実施され、1年次後半以降の活動の本格的な始動に向け事業実施体制が整備された。</p> <p>① プロジェクトスタッフの採用： スタッフの採用が予定より遅れたが、事業の進捗に支障は出なかった。現地事業責任者（日本人プロジェクト・マネージャー）は3月28日に、他の現地スタッフ5人も運転手以外、6月1日までに勤務を開始した。運転手は、プロジェクト車輛の到着に合わせて7月18日から勤務を開始した。</p> <p>② 資機材の調達： 資機材の調達に関しては、車輛1台、モーターバイク2台、ジェネレータ1台及びコンピューター2台の調達が完了した。船積みと輸送のスケジュールの関係で車両の到着に遅れが出たものの、東ティモール事務所が実施する他のプロジェクト車輛の借り上げやモーターバイクの使用により補完できた。よって、プロジェクトの進捗に支障は出なかった。</p> <p>③ ベースライン調査の実施： 同調査は、5月29日から6月3日まで予定より若干早めに実施された。当初の計画では、事業開始ワークショップを終えた後にベースライン調査を実施することになっていたが、ベースライン調査の準備が前倒しに進められていたこと、ベースライン調査の情報を踏まえて事業開始ワークショップを実施する方が効果的だという判断からベースライン調査が先行した。調査では、コンサルタントの指導のもと、フィールドスタッフ3人と調査員3人の6人でタブレットを使用して調査を行った。タブレットの導入により、調査実施の時間を短縮できるだけでなく、インプットをコンピューターに入力し直す手間が省け、分析に関しても調査直後から開始できることから、調査はより効果的に行うことができた。更に、エルメラ県アッサベ郡では、ケマック語という現地語が使用されており、農民や教育を受けていない人口の間では、東ティモールの公用語テトゥン語が通じないことが多々ある。そこで、タブレットに英語、テトゥン語、ケマック語の3言語でプログラムすることにより、調査チームのすべてのメンバーが同時に情報を把握できるよう努めた。この手法は、ケマック語で行ったインタビューの情報が、同時に他のメンバー（特にコンサルタント）にも理解された点で非常に有効であったといえる。</p> <p>④ マーケティングニーズのフォローアップ： ベースライン調査において、農民が主にどこでどのように生産物を販売するかに関する基礎情報が得られた。この情報を基にアッサベ郡から他の村や県への交通手段や商人の有無などについて、簡単なフォローアップ調査がフィールドスタッフによって行われた。次のステップでは、既存の市場に関する報告書やベースライン及びフォローアップ調査の結果をまとめ、現状とビジネスチャンスのギャップを分析し、同分野に精通した機関との連携を通して、農民や関係者の能力強化を図る方向性を探る意向である。</p> <p>⑤ 事業開始ワークショップ： 6月中旬には、プロジェクトチームを対象に事業開始ワークショップが開催された。具体的には、ベースライン調査の結果発表、同結果を基にしたニーズや対象者の基準の確認、詳細計画策定、プロジェクトのログフレームに関する理解促進、短期的及び長期的な気候変動への農民の対応能力の調査(CVCA)に関する意見交換、研修計画策定、他プロジェクトとの調整、ジェンダー平等に関する研修、児童保護に関する研修などが実施された。</p>

前述のように当初はワークショップが行われた後にベースライン調査を実施する予定だったが、詳細の議論や計画策定をするにあたり、順序を変更したことは効果的であった。プロジェクトの2年次事業概要の作成に向け、2年次に関するプロジェクトの実施計画に関しても議論された。

⑥ 短期的及び長期的な気候変動への農民の対応能力の調査(Climate Vulnerability and Capacity Analysis-CVCA) :

CVCA は7月下旬から実施予定であるため、現時点では成果を記載することはできないが、これまでに実施に向けた準備が行われた。まず、ベースライン調査報告書の結果や助言を踏まえ、CVCA の対象者やカバーする内容等について議論及び確認し、必要に応じてアプローチの変更や活動内容の調整を行った。

また、CARE が策定した CVCA のハンドブックを参照しながら、どのような調査手法がアッサベ郡の状況やコミュニティに適するかなどが検討され、議論に基づいて研修のモジュールや教材の作成準備が進められた。

更に、プロジェクトスタッフ、特にフィールドスタッフが CVCA 手法をマスターし、フィールドで有効的に活用できるよう、本事業の先行事業でもある「食糧の安全保障と栄養改善事業(HAN Project)」に携わっていた元東ティモール事務所のスタッフを招いて7月21日には CVCA 集中講座を開催した。同講座は日本人プロジェクト・マネージャー、農業技術・ビジネス専門家兼副プロジェクト・マネージャー、フィールドスタッフ及び東ティモール事務所のプロジェクトや研修担当スタッフを対象に行われた。

(2) これまでの事業を通じての課題・問題点と対応策

① 多言語環境への対応 :

課題や問題ではないが、ベースライン調査の準備段階でケマック語の重要性が再認識された。故にスタッフ及び調査員の採用においては、業務経験や能力、ジェンダーに関する認識に加えケマック語の能力を選考段階で考慮し、更にベースライン調査時に利用したタブレットでは3言語を使用した。このような工夫により、言語の違いによる困難には直面していない。

② 悪路への対応 :

アッサベ郡の道路事情はもとからよくないのが現状であるが、雨季には更に悪化し、時にオートバイの使用が危険な状況になる。雨季にあたったベースライン調査では、車両2台を手配し、スタッフの一人はオートバイを使用した。幸運にも天気にも恵まれたため、オートバイも使用することができ調査が効率的に進んだ。しかしながら、雨季のオートバイの使用は場合によっては、命にかかわることであり、無理をして活動を詰め込みすぎるとスタッフへの負担が大きい。従って、雨季には、活動の遅延があり得ることを念頭に、活動スケジュールの調整を柔軟に行ってゆく。また、車両のみで対応できるような方策を考えることも重要である。

③ 予算策定時と支出時の費用ギャップへの対応 :

本事業の予算は、1年半前の予算が基になっており、車両やオートバイ、コンピューターなどの機材費が当初の予算額より超過した。フィールドオフィサーの一人が免許をもっていないことや免許を取得しても道路状況が悪い中、初心者が無理に運転をすると事故に繋がりがかねないことを考慮し、最終的にオートバイは、当初の3台ではなく2台を購入することで対応した。

④ 大統領選と議会選挙による活動の遅延の可能性 :

更に2年次(2017年)の4月から6月にかけては、大統領及び議会選挙が予定されている。同選挙前には選挙キャンペーンが実施される為、対象受益者が集まらない、或いは本プロジェクトの活動に集まった人々が、その機会を選挙関連の活動に利用するなど、様々なシナリオが予測される。従って、この期間に予定されている活動、特に村の関係者が参加する CVCA

	<p>の実施は遅れが予想される。1 年次には、村長及び村落長選挙が実施されたが、実施日の直前の変更や延期等によって、選挙活動期間が長期化し 9 月半ばから 11 月半ばまでは、政府やコミュニティの動向が読めない状況にあった。そのような状況下、活動が留まらないようにするため、フィールドスタッフは、コミュニティ或いは農民グループと相談・連携をとり、村単位で実施する予定の活動を集落村或いは農民グループ単位で行うことで対応してきた。2017 年の大統領・議会選挙においても同様の状況が考えられる。コミュニティと密に連絡をとりながら活動の進め方を変える等の臨機応変な対応をしてゆく。</p> <p>⑤不安定な天候：</p> <p>東ティモールでは、2016 年前半にエルニーニョにより農業に影響が出た。今後は、ラニーニャが起ると予想されており、更に農業への影響が懸念されている。アッサベ郡では、エルニーニョの影響は直接なかったものの、11 月の種まきの時期になっても雨量不足により種まきが遅延している。そのため、すでに 1 年次の活動に影響が出ているが、天候という外因には手立てがない。フィールドでの活動では、いまのところ農業の演習のみを先行し、雨が降り次第、種まきを実施するという方法で対処している。</p> <p>(3)「持続可能な開発目標(SDGs)」の該当目標への寄与</p> <p>事業開始から半年時点において、SDGs に対する具体的な成果はまだ発現していないが、成果発現に向けた下地作りを進めてきた。とりわけ、目標 2 のターゲット 2.4 の実現に直接的に寄与する活動としては、1 年次後半以降に実施される CVCA を挙げることができる。</p>
<p>8. 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>今次事業により達成される具体的目標は下記の通りである。2 年次は、まだ CVCA や ARAP、研修等を開催することが主な活動なため、活動レベルの指標が主となり、成果に対する指標は限られている。尚、プロジェクト全体としての達成目標は、添付の総括表を参照のこと。</p> <p>(1) 成果 1</p> <p>成果 1 においては、当事者の相互扶助グループである農民グループを形成し、様々な研修及び実演活動を経てグループの能力強化を図るアプローチをすることで、SDGs の目標 2 のターゲット 2.3 及び 2.4 の実現に寄与してゆく。</p> <p>①成果 1：</p> <p>農業分野における持続的で多様な生業手段の構築に向けて、エルメラ県アッサベ郡の農民の能力が強化される。</p> <p>②成果 1 を測る指標：</p> <p>1.1：75%の農民メンバーは研修で得た知識・技術を用いて活動を実施している。</p> <p>【2 年次:30 の農民グループの約 450 名の農民のうち 75%】</p> <p>③指標の確認方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) モニタリング報告書 2) 研修報告書 3) 農民グループの基礎データ 4) 生産と販売の記録 5) 集落強靱化アクションプラン <p>(2) 成果 2</p> <p>成果 2 においては、女性から成る農民グループを形成し、彼女達のリーダーシップの力を育み、併せて関係する男性にもアプローチしジェンダーの平等にかかる意識と行動の変容を図ることで、SDGs の目標 5 のターゲット 5.1 及び 5.5 の実現に寄与してゆく。</p>

	<p>①成果 2 : 生業活動と生業に関する意思決定に積極的に参加できるように、農民グループに属する女性の能力が強化される。</p> <p>②成果 2 を測る指標 : 2.1 : 10 の女性農民グループが新たに形成される。 【2 年次 : 10 の女性グループ】 2.2 : 気候変動への農民の対応能力調査と集落強靱化アクションプランの参加者のうち 50%は女性である。 【2 年次 : 農民の対応能力調査の参加者の 50%が女性】 【2 年次 : 集落強靱化アクションプランの参加者の 50%が女性】</p> <p>③指標の確認方法 : 1) モニタリング報告書 2) 研修報告書 3) 農民グループの基礎データ 4) フォーカスグループディスカッション</p>
--	--